

俱く会え一い処っのしご縁よです



(上) 昭然前住職17回忌法要に
110人の門徒同朋の皆さん
がお参りされました



(左上) 声高らかにお正信偈の
お勤めをしました



(左下左) 11月24日に満90歳を
迎える保恵前坊守の
卒寿のお祝いを併せ
てしました

(左下右) お祝いのお花を贈られ
元気に和やかに御礼を
する前坊さん

(11月1日)

よ
う
こ
そ

第 35 号

浄土真宗本願寺派

円光寺

〒870-0108

大分市三佐3-15-18

TEL097-527-6916

FAX097-527-6949

祥しょう月がつ命めい日にちは誕生たんじゆう日にち!?

十一月一日(日)に円成院釋昭然前住職の十七回忌の法要をご門徒皆さんでお勤めしました。

平成十一年十一月一日に往生して十六年になります。祥月命日のご縁です。この日は年忌法要の年だけでなく毎年ご法座を開いてご門徒衆にお参りしていただいています。

祥月命日は一年一度のご縁です。命日は命の日と書きますが、人の命を終えた日であり、同時に阿弥陀さまのお浄土に往生し仏さまに成らせていただいた誕生日でもあります。

法事のことを昔から「おとむらい」と言い習わしてきた地域があります。とむらうというと、「弔う」と書いてお葬式の意味で使っている所が多いと思いますが、法事の意味を「訪う」と書いて、たずねていくというのです。故人を偲ぶという言い方で、その方の人となりをたずねてお話をし後の人に伝えていくということですし、先に往かれた阿弥陀さまのお浄土をたずねていくということなのです。今はお浄土の仏さまとなつてこの私をいつでもどこでも南無阿弥陀仏「まかせよ、救う」とおはたらきであると聞かせていただきます。

ご本尊の阿弥陀如来(仏)を中心に南無阿弥陀仏のおはたらき(法)一つに、ご法事のご縁に遇わせていただいた私たち(僧)です。阿弥陀さまのお浄土を俱会一処の世界といいますが、仏法僧の三宝がそろった御仏前に座ることができた、両手合わさった、お念仏申せたこの私、どのこと一つとっても私が偉くてできたことではありません。仏さまのお手回しといただきます。このたびのご法事のご縁の仏さまです。「お誕生日ありがとう」とお念仏申してお礼をさせていただきます。

お念仏のご縁づくりをすすめてみましょう

町の書店で仏教関係の本が売れ、写経や座禅の会が人気となり、お坊さんがテレビ出演するなど、今仏教が身近な話題になっています。一方、お寺にお参りされる方は(有難いことですが)いつものご門徒さんに限られ年々少なくなっています。

仏教に関心があってもお寺を訪ねる人は少ない。一体お寺は何のためにあるのでしょうか。

お寺が建てられた理由

お寺という建物があるなかで、いかにお寺を護持していくのか、一人でも多くの人にお寺参りしていただくのかということに終始苦慮している現実があります。今のようなお寺がなかった時代、先人はどのようにお念仏のご法義に出遇い代々伝えてきてくださったのか。お寺が建てられた原点に立ち返りこれからのお寺のあり方を考えましょう。

浄土真宗のお寺の特徴

お寺の本堂に入ると、お内陣うちじんの中心にご本尊の阿弥陀如来がお立ちです。お内陣は阿弥陀さまのお浄土をあらわします。すべてのおものを分け隔てなく必ず救うという如来の本願が成就されたおすがたです。私たちが座

る外陣げじんはお内陣より広くとつてあります。多くの人にお参りしてほしい、仏法聴聞してほしいとの願いがこめられています。お寺は聞法の道場です。浄土真宗は聴聞に極まるといえます。「仏法を聞いてくれよ。お念仏申してくれよ」と、この私のために先人が開いてくださったのが浄土真宗のお寺なのです。

道場というお寺

しかし最初から今のよう大きなお寺があったのではありません。親鸞聖人は生涯お寺をもたず、ご自分の庵でまた民家の囲炉裏でとつとつとお念仏のみ教えを人々に伝えていかれたといわれます。浄土真宗のお寺の原型は「内道場」といわれるもので、本願寺第八代宗主の蓮如上人の時代に、「南無阿弥陀仏」のお名号のご本尊を個々のお家にお迎えして地域のお念仏の集い「講」が勤まり、講に集う人が増えるに伴って一戸建ての道場に発展し、お内陣がお飾りされて寺院化していったといわれます。お念仏に生きる先人が、阿弥陀さまのお徳を讃嘆しご本願を聞かせていただく強い思いから、浄財を持ち寄って建てられたのが私たちがのお寺なのです。

お家の道場でご法座を

ご門徒皆さんが住まいするお家にお寺のルーツがあるのです。お家の中心にお仏壇をご安置しご本尊をお迎えしてお念仏の生活をさせていただきます。ご門徒はお念仏の道場を預かる道場主です。お仏壇を単なる飾りものにしてしまつては勿体ない、お念仏の先人に申し訳ありません。お念仏の仏法広まれの願いを共にしてお家の道場でご法座を開きましょう。

まず私からお念仏のご縁に遇わせていただき、家族・知友有縁の方に声かけをしてお念仏のご縁づくりをすすめてみましょう。

到彼岸の百日参りです



春彼岸から秋彼岸まで百日間お寺参りされた皆さん(前列5人衆)ごほうびに東北の新米をおくりました(10月6日)

世々生々

ラグビーワールドカップの日本代表の大活躍に日本中が沸いた。ラグビーといえば強靱で大きな体の選手が多く、日本人には不向きなスポーツと言われる。その日本が世界を驚かせた◆今回の日本チームには外国出身の選手が多い。「これは日本じゃない」と言う人もいる。日本ラグビーの新たな歴史を作る熱い思い一つに結集し苦しい練習にも耐えてきた最高の仲間だとチームメイトは彼らを称讃する◆今外国人が日本各地に目立って増えている。仕事で長期滞在する人、観光や買い物で来日する人など、目的は様々だ。先述のラグビー選手のように日本に帰化する人もいる。一方で難民受け入れについてはハードルが高い。日本は真の意味で開国しているのか、鎖国のままかと議論されるころだ◆ラグビーにはノーサイドの精神が伝わる。勝負は勝負として、ゲームが終われば勝った者も負けた者もない、同じラグーマンとしてお互いの健闘を讃え合う◆日本人か外国人か。仏さまの世界に一切の線引きはない。同じいのちを生きるもの同士、敬い支え合うことで光り輝くのちを共に生かされると聞かせていただく。

お朝事「法話」より

プロフェッショナル

NHKテレビで毎週月曜日の夜「プロフェッショナル」という番組があります。プロフェッショナル、専門的職業としてその道を究めた人のことです。

昨日は肝臓がん手術のトップランナー60歳の外科医の先生が放送されました。他の病院で治療が難しい手術ができないと、いわば見放された患者さんが年間五百人ほどその先生のもとにやってくるといいます。

検査をした後で結果を見ながら、不安そうな患者さんに「手術をしましょう」と先生が言うのと、患者さんとその家族が「ありがとうございます」と涙する場面がありました。手術を終えて結果成功したら「ありがとうございました」と「手術をしましょう」と言われて「ありがとうございます」とお礼をする。生きる希望を開いてくれたという思いなのでしょう。

肝臓は血の臓器といわれ、たくさんの血管が集中していて少しでも間違えると大量出血して亡くなってしまう危険性が高い難しい手術だといえます。その手

術にその先生が自信満々で臨むのかというところ、いつも不安だといえます。でもその不安や心配が細心の注意となって手術がうまくいくのだとおっしゃいます。

そして手術後三か月経って患者さんが再び病院にやってくる。「術後の経過、順調ですよ」と先生から言われ患者さんは安心します。その後の言葉がすごい。手術後の経過で患者が最も心配なのが再発ということですが、「再発は医者の方が心配することです」と。本来は当事者の患者さんが一番心配なことから、「医者の方が心配することです。私にまかせなさい」と言われたいなら生活が楽しくない



第2回円光寺救急救命講習会(7月24日、本堂) AEDの使用法など再学習しました

ご案内

◆御正忌報恩講

11月26日(木) 13:00~15:00
同 19:00~21:00
(子どもほうおんこう)

11月27日(金) 11:00~15:00
同 19:00~21:00

11月28日(土) 10:00~12:00

◆常例法座

12月16日(水) 10:00~11:30

◆除夜会(鐘つき)

12月31日(木) 23:40より

◆元旦会

1月 1日(金) 除夜会に引続き

◆初法座

1月 2日(土) 10:00~11:00

◆常例法座(親鸞聖人祥月御命日)

1月16日(土) 10:00~11:30

◆常例法座

2月16日(火) 10:00~11:30

“月に一度は
お寺参りしましょう”

※詳しくは「寺通信」でご確認ください。

でしょ、面白くないでしょ、だから医者の方にまかせなさいと。お医者さんにまかせても、再発するときには再発する、手術してもいつも成功ばかりではない、亡くなることもあります。でも「大丈夫ですよ。私にまかせなさい」と言われて、安心できるといふことなのでしょう。私たちが起る日々の生活もそれ無常の世にあつて、生老病死の迷いの境涯を生きていると仏さまは教えてくださり、あれやこれや心配事をたくさん抱え苦しむ悩む私たちに「私がいるよ、大丈夫だよ。あなたのいのちそのまんま引き受けたから私にまかせなさい」と南無阿弥陀仏となつておはたらきです。何かあるかわからない人生だけれども

「ありがとうございます」とお念仏申して安心して生きていける。お念仏のご法義を本当に有難く頼もしく思います。

仏道で道を究めるといふと、厳しい修行を連想しますが、私たちの仏道はお念仏の道です。私が切り開く私が究める道ではありません。阿弥陀さまが開いてくださった究めてくださった南無阿弥陀仏のお心をそのままいただきます。「われにまかせよ、必ず救う」のおはたらきです。

今日も一日、南無阿弥陀仏「仏にまかせまいらせて」この道を歩ませていただきます。 (9月29日)

お朝事にお参りしましょう
▲毎朝6時30分〜7時V



第17回盆おどり大会(8月12日、境内駐車場) やぐらの前で、早朝より準備お手伝い いただいた仏教壮年会の皆さん



小学生38名と中学生8名が参加しました (7月31日~8月1日)

第35回サマースクール

子どもの声がいつぱい聞こえるお寺です!!



「百華の舞」ののぼりのもと門徒衆15名で 本場鶴崎踊大会に出場(3回目)しました (8月23日、大分市鶴崎公園グラウンド)

お念仏の踊りの輪ができました



毎年恒例のわくわくナイトハイキング。ご門徒さんのお家にお参りします。おせつたいが楽しみです (7月31日、三浦千年様宅)



仏教婦人会のお母さん方が作ってくれた食事を前に食前の言葉を言います「いただきます」 (7月31日、本堂)



夜の御座ではお茶の会による お抹茶の接待がありました (9月22日)



中休みに童謡唱歌を歌ったり 健康体操をしました (9月22日)



本多公堯師(白杵光蓮寺様)に 布教お取り次ぎいただきました (9月22日)

秋季彼岸会法要

にぎやかに敬老会

70歳以上のご門徒56名が出席、婦人会手作りの昼食をいただき、歌や踊りに楽しい時間を一緒にしました。



「藤華澄智代会」によるスコップ 三味線に興じる皆さん(10月1日)

あ と が き

東京に行って懐かしい友人二人に会った。一人は大学の同級生、学生時代二人で能登に旅をして出会ったのがもう一人。福岡出身ということで話が盛り上がり、京都で一年余り草野球をしたりして交遊を深めた。あれから40年、互いに歳を重ねそれぞれ的人生を歩んできた。ただ青春時代の思い出に浸るだけでなく、異なる世界の色々な話が聞けて本当によかった。縁あって今は「ようこそ」でつながる友である。これからもよろしく、また会いましょう。